

明けましておめでとうございます。

平素は工業会の活動にご理解とご協力賜り、誠にありがとうございます。

旧年中は大変お世話になり、深く感謝申し上げます。

寒さが厳しい季節ではございますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

今月号は年頭所感ならびに昨年実施しました工場見学会、青年部会の活動、安全大会、外国人技能実習試験についてご案内いたします。

年頭所感

《一般社団法人日本RPF工業会会長 三輪 陽通》

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、期待や希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

「プラスチック資源循環促進法」「再資源化事業等高度化法」とりサイクル法案が2年連続で公布され、サプライチェーンをはじめすべてのステークホルダーが参加して循環経済社会を形成していく道筋が示されました。特に再資源化事業等高度化法は、再資源化意識を強く求めるものになっており、新規の再資源化認定の事業も立ち上がっていますが、自治体によるプラスチック製品の回収が続々と始まる気配から、処理能力が追いつかないとの懸念も広がりRPF業界へのヒアリングも出始めており、低炭素社会、サーキュラエコノミー到来の明るい未来を前にした業界にとっては混とんとした局面と言えます。RPF事業者は時代の流れに沿いながら、環境性と経済合理性を維持し、事業運営の舵取りをしなければならない結節点であると考えます。

工業会としては、この混とんとした現状を会員企業様やステークホルダーと共有し、サーキュラエコノミー社会の実現に向けてRPFの優位性をPRして、今後の展望を開いていく所存です。引き続きのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

結びに、みなさまにとりまして幸多き年になりますことを御祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

《技術品質委員長 見澤 直人》

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

技術品質委員会では昨年9月に、2020年以来となります現地での工場施設見学会を開催させて頂きました。初の九州での開催ということもあり、株式会社東部開発様の全面ご協力の下、総勢50名以上の方々にご参加頂き多くの学びを得る機会になりました。

本年も技術品質委員会では勉強会や工場見学会などを通じて有益な情報を発信していけるよう邁進してまいります。

昨年開催されたパリオリンピックも史上最も環境に配慮したオリンピックを目指すなど、環境への対策は世界的な最大関心事となっているのではないのでしょうか。また今年は関西エキスポが開催されそこでは新たな脱炭素技術などの発信もあるとお聞きします。



また、資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律の施行も控えており、依然として我々を取り巻く環境は変化していくことが予想されます。

今後も会員企業の皆様に有益な情報を発信できますよう、努力してまいります。会員企業の皆様にとって新しい年が幸多きものとなりますことをお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

《安全衛生委員長 本間 洋士》

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、元旦から最大震度7を記録した能登半島地震が発生し、翌日には被災地救援のために派遣された航空機による事故も発生しました。正月の明るい雰囲気を一転させる出来事からスタートし、8月8日には気象庁から南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。想定外を想定する。他人事ではなく自分事。思い改める契機となりました。

近年は、気候変動による暴風雨などの自然災害、熱中症は常態化し、従来大型機械による挟まれ、巻き込まれといった労働災害に加え、多面的な角度から安全を担保しなければならない時代となりました。社会インフラの一翼を担う業界として、事業継続を脅かすリスクに対し、より効果的な知見を共有し、対策を講じていきたいと考えています。

安全衛生委員会では、昨年6月、昨今のリチウムイオン電池内蔵製品の普及に伴い増加する火災事故を鑑み、講習会を開催いたしました。また、10月には、8回目となった安全大会を開催し、多くの方々よりご参加いただきました。本年は、2月4日から計4回にわたり安全体感体験研修会を開催いたします。ご参加いただけますよう宜しくお祈り致します。

なお、本年の安全大会は、火災事故をフォーカスし、防火及び消火における具体的な取組みについて会員皆様にご提示する予定です。

本年が穏やかで潤いのある年になりますことをご祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

《用途開発委員長 田墨 啓治》

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお祈り申し上げます。

昨年の用途開発委員会の活動は積極的な動きになりませんでした。RPFについては従来通り順調に利用されている状況に変化はございませんが、2025年からは新たなボイラーが随時稼働するようです。RPF原料集荷が厳しい中で高品質なRPFを供給するには更なる変革が必要になってきます。

ケミカルリサイクルの進展を期待しておりましたが予定していた油化施設の稼働延期もあり新たなフェイズが見通せない状況です。一方で鉄鋼向けコークス還元剤や電炉向けでの使用も始まりを見せております。

エネルギーリカバリーの評価が今一つではありますが、化石燃料を代替するRPFが適切に評価される努力が必要で、サプライチェーン全体で取り組まなければならないことを感じております。

今年一年が皆様にとって良い年になること祈念いたします。

《総務広報委員長 平林 正幸》

新年あけましておめでとうございます。

昨年6月に総務広報委員会の委員長を拝命致しましたが、何かと不慣れな点ございましたが、本年も引き続き宜しく御祈り申し上げます。

現在総務広報委員会では、ホームページとパンフレットの刷新を検討致しております。

少しでも会員企業の皆様及び関連する事業者の皆様、この工業会の活動をわかりやすく興味を持って頂けるよう取り組んで参ります。

RPFの有効性のアピールと新たな発信の出来る場所を検討して参ります。昨年まで数多き諸先輩方のご尽力により、RPFの価値が浸透してきましたおり、新たなニーズの開拓ができる場所を求め、会員企業の皆様に有益になることを

第一として活動していきます。

各委員会や事務局との連携も高め、多方面からの情報を探りながら会員企業の皆様に、お役に立てる情報を発信して参ります。

会員企業の皆様にとって本年が素晴らしい一年になること、工業会の更なる発展を心より祈念申し上げます。

本年もどうぞ宜しく御願ひ致します。

《海外事業支援委員長 片境 邦喜》

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しく御願ひ致します。

2023年11月の台湾視察の際に現地での受入窓口をして頂きました台湾生質能技術発展協会と両会の会員間に連携・相互活動を図り、RPFを含めたバイオマス燃料関連分野において進歩と発展を目指す事を目的としてMOUを締結する予定です。

MOU締結後には両会において展示会・講習会・その他の産学官を巻き込んだイベントを計画してゆきたいと考えております。会員企業様からアイデア等が御座いましたらどしどしお寄せ下さい。

本年は台湾以外のエリアにも取り組み、ネットワークの拡大を目指し会員企業様へ有益な情報が発信出来るよう取り組んで参ります。

会員企業の皆様にとって巳（実）のり多き素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。

《青年部会長 小川 貴広》

新年明けましておめでとうございます。日頃より皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

昨年は、青年部といたしまして、挑戦と成果を経験させていただきました。特に、新たな取り組みとして「工場長サミット」を開催、また視察研修を通じて、会員間の絆を深めることに繋がりました。

2025年は、青年部4年目としてさらに一歩進んだ活動を目指します。今年は、定例会や勉強会に加え、新たな取り組みとして開催した、「工場長サミット」を「〇〇サミット」と題して継続事業として計画を進めています。会員企業の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

本年もどうぞよろしく御願ひ申し上げます。

《第11回工場見学会》

■第11回工場見学会

日時：令和6年9月10日(火) 13:00~16:30

見学先：
・王子マテリア株式会社 大分工場
・株式会社東部開発 固形燃料製造工場

・王子マテリア株式会社 大分工場

今回見学をさせていただいた王子マテリア様は、日本を拠点とする製紙会社であり、王子グループの一員です。主に産業用紙や包装用紙、段ボール原紙などを製造しており、製紙業界のリーダーとして国内外で幅広い製品を提供しています。また、環境保護や持続可能な資源利用にも力を入れており、リサイクル活動やエコロジー製品の開発にも積極的に取り組んでいます。

近年、デジタル化の進展により、紙製品の原料となる雑誌、新聞、白色古紙などの収集に苦戦していると伺いました。これらの資源をいかに効率的に集めるかが課題だとおっしゃっていました。

王子マテリア様では、環境への取り組みを積極的に行っており、2050年のカーボ



ンニュートラル実現に向け、まずはボイラー燃料として石炭の使用率をゼロにするという目標に向けた取り組みを進めています。現在は約7割がRPF、約3割が石炭、一部タイヤも使用しているとのこと。

今後も、私たちの協会としてはRPFの大切な受け入れ先として、貴社との信頼関係をさらに強化し、共に持続可能な未来を築いていきたいと考えております。

・株式会社東部開発 固形燃料製造工場

東部開発様は解体業、それに連なる建設産業廃棄物処理に携わっています。創業昭和44年以來の経験と実績を積み重ね、未来の地球環境の向上につながる仕事を目指しております。産業廃棄物処理では安定型および管理型最終処分場を持っており、自社内で完結した処理・処分が可能です。

RPF事業を『焼却』・『埋立処分』と並ぶ第3の柱づくりのための重要な戦略と位置づけた経営戦略の基に、製紙工場の燃料のRPF代替化を機に、平成16年2月、総事業費7億円をかけてRPF製造工場を新設・操業を開始しました。

RPF工場の処理能力は日産最大144トン（月産 同3,000トン）ですが、現状の生産量としましては約6～7割の月産1,800～2,000トン程とおっしゃってございました。

設備投資に対しても積極的に行っており、品質管理のため光学選別機や蛍光X線分析器等を導入し、品質管理を行っております。

また、最近では移動式破砕機・トロンメル選別機等の設備投資行ったそうです。



《青年部会 第1回工場長サミット及び第2回工場見学会》

■第1回工場長サミット

日時：2024年11月13日（水）

主催：一般社団法人日本RPF工業会 青年部

場所：TKP ガーデンシティPREMIAM 名古屋駅

参加：47名



第1回工場長サミットは、日本RPF工業会青年部が主催し、参加者47名が集まりました。このサミットでは、各社の工場長や製造責任者が集まり、人材育成や製造に関する課題解決についてディスカッションが行われました。参加者は日常業務での悩みや問題点を共有し、有効な取り組みや失敗談など、さまざまな意見が活発に交換されました。討議内容はAグループとBグループに分かれて行われ、それぞれのグループで人材育成や安全対策、DX導入などについて議論が行われました。



また、特別講演では催眠療法士/能力開発トレーナーの坂上コウ氏が「仕事と人生を変える意識の使い方」というテーマで講演を行っていただきました。催眠を使いながらの参加型の講習内容で私たち管理職が潜在意識の中での決めつけることでの人材育成への弊害や若手の潜在意識から変化をもたらす効果的な接し方、今後の仕事への向き合い方に参考になることが多く、人材面での悩みを持つ私たちにはとても参考になる講演会となりました。



■第2回工場視察会

11月14日（木）

① 株式会社バイオス小牧

ご対応：代表取締役 廣部 智己様 取締役 浜辺 久 様 他

② 大王製紙株式会社可児工場

ご対応：執行役員生産本部可児工場工場長 田坂 浩明様

生産本部可児工場パルプ動力部動力課長 井戸 成之様

資源購買本部海外資源部チップ燃料調達課長 大垣 徹様 他

主催：一般社団法人日本 RPF 工業会 青年部

参加：36名

第2回工場見学会では、株式会社バイオス小牧様と大王製紙株式会社可児工場様の2つの工場を訪れました。

バイオス小牧様は、食品廃棄物の再生利用や環境にやさしいエネルギーの創出を目指しています。JFEエンジニアリンググループの中京圏初の拠点として、2023年2月から操業を開始しました。バイオス小牧では、従来は焼却処分されていたプラスチックや割り箸、爪楊枝などの混入物を含む食品廃棄物も受け入れることができます。受け入れた資源から有機物を分別し、メタン発酵させてバイオガスを発電しています。これによりCO2の削減や食品リサイクル率の向上に貢献しています。参加者は、バイオマスボイラーについての知識を深めることができましたと思います。



大王製紙可児工場様は、岐阜県可児市に位置し、三島工場に次ぐ規模の生産拠点であり、グループ会社を合わせて約1,000名が働いています。植林木チップや古紙からパルプを製造し、さまざまな種類の紙を作っています。見学者は、ティッシュペーパーの生産現場やボイラー棟、操作室などを見学し、製造現場の管理や工夫について学びました。



参加いただいた方々には、他工場のトラブル事例などの意見交換ができ、非常に有意義な時間を過ごすことができましたという意見をいただいております。

特に人材育成や意識の使い方についての講演は好評であり、参加者は今後もこのような交流を続けてスキルアップにつなげたいと感じています。

《安全衛生委員会による第8回安全大会開催》

■第8回安全大会開催

日時：2024年10月28日（月）

主催：一般社団法人日本 RPF 工業会 安全衛生委員会

場所：エッサム神田ホール2号館 2-601号室

参加：リアル開催59名 + WEB25名



三輪会長、安全衛生委員会本間委員長のご挨拶から安全大会が開催されました。

廃棄物処理業界でも注意が必要である事を改めてお話され、昨年の安全大会ではリスクアセスメント、不安全な状態や行動の改善、教育指導の重要性を提言され、製造技術の発展とともに安全技術も向上していく必要があるとお話がありました。

登壇者イージーエス黒島工場様では、親会社である住友化学株式会社のRC活動（レスポンシブルケア活動）を基にRPF製造工場の安全対策を紹介しました。火災報知器や煙感知器の設置、温度モニタリングなどの取り組みをされています。また、不法侵入の監視も強化し、警備会社や消防にも迅速に情報が伝えられる体制を整えられています。活動内容を対外的に発信しており、安全を全てに優先させるを基本理念として内部監査委員も設置し、実効性を評価されています。

また、安全衛生委員会では工場パトロール視察を実施し、この度株式会社レックス島田工場様を視察した結果の報告がありました。工場内の掲示物や、社内KYT講習会、ヒヤリハットの提出件数に応じたインセンティブ支給など活動内容の報告もありました。年間で月間安全テーマを策定し、その月のテーマに沿った活動が行われています。社員はリスクアセスメントを自ら策定し、リスク程度や発生頻度、可能性で優先順位をつけ対策を講じられています。さらに、特殊東海製紙グループでは、安全衛生組織の取り組みやリスクアセスメント活動、安全体感教育などを紹介しました。グループ全体で安全を重視しており、社員教育やコミュニケーション活動にも力を入れています。KYイラストコンテストを社内で全国安全週間中に実施をして、日ごろの作業に潜むリスクを自ら考え、伝わりやすくする工夫をされていました。最近フォークリフトに人身事故防止のAIカメラの導入を進めているとのこと。御池鐵工所様も、安全活動に取り組んでいます。設備メーカーとして、RPF製造装置におけるユーザー側の日常的なメンテナンスに潜むリスク対応として、成型機先端スクリーウの交換用治具を設計し提供しています。最後に、副会長からの挨拶があり、安全衛生への取り組みの重要性が再確認されました。

《外国人技能実習評価試験の専門級について》

■専門級試験

日時：2024年12月3日（火）

場所：日本ウエスト様

2021年1月に厚生労働省から認定を受け、RPF製造職種の外国人技能実習の試験、受け入れがスタートしています。この度、日本での実務経験24か月以上の技能実習生を対象に、初級編に次ぐ専門級の試験が初めて実施されました。初級編の合格者は2021年に37名、翌年43名、翌々年67名と年々増加傾向にあります。

専門級の試験では、筆記試験、実技試験が用意されており、筆記試験ではRPF製造に関する選択問題が30問、実技試験ではタブレットを使い、RPF製造設備の立ち上げ、停止操作を模擬的に実施、加えて、RPFに向いている廃棄物の選別作業の試験が用意されています。専門級は現在45名の受験が予定されており、ますますRPF製造現場における外国人技能実習生の活躍が期待できます。



【編集後記】

2025年が始まりました、今年の干支は 巳年「蛇年」は十二支で「巳年」と表記されます。この「巳年」の「巳」という漢字は、胎児の形から派生しており「新しく産まれてくる」、「将来・未来がある」、「子孫繁栄」、「家族が平和になる」といった意味もあり、「蛇年」のもつイメージが伺えます。

本年は、海外事業支援委員会での台湾とのMOUの締結や外国人技能実習評価試験の専門級が昨年末より実施されております。青年部においても昨年工場長サミットを開催されたりと工業会の活動も活発になっており、本年も継続的な活動がなされるようで楽しみな一年になりそうです。

年頭より恐縮ですが、昨年11月にサーチライトを発刊する予定でしたが、諸般の事情にてこの新春号との合併で発刊となってしまい、会員各位の皆様には大変失礼いたしました。

本年は、従前以上により良き情報を発信できるべく尽力して参りますので引き続き宜しく御願い申し上げます。

(文責；総務広報委員長 平林 正幸)